

[成果情報名]GAPに対する消費者評価

[要約]GAPに取り組み生産された農産物(トマト)に対する消費者評価は、そうでないものより相対的に高くなる。仮にGAP認証取得の外国産農産物(トマト)が流通した場合、消費者評価はGAPに取り組んでいない国産トマトとほぼ同等となる可能性がある。

[キーワード]GAP、消費者評価、外国産農産物

[担当]宮城農園研・情報経営部

[代表連絡先]電話 022-383-8120

[区分]東北農業・基盤技術(経営)

[分類]行政・参考

-----  
[背景・ねらい]

消費者の食の安全・安心への関心が高まる中、農業生産現場においてはGAP(Good Agricultural Practice)に取り組み、安全な農産物生産のための生産管理を実施することが求められている。仙台市及び首都圏在住の宮城農園研登録消費者モニター(以下消費者モニター)に対して郵送アンケートを行い、消費者がGAPに取り組んで生産された農産物を評価するかどうかを明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 消費者モニター(仙台、首都圏)のGAPの認知度は低く、意味を含めて知っていた回答者は全体の1割以下だが(データ省略)、GAPの内容について説明後、GAPに取り組んで生産された農産物(トマト)の評価額を2つの質問形式で調査すると、いずれの地区の消費者モニターもGAPに取り組んでいない農産物と比べると高く評価する(表1、2)。
2. 消費者モニターが農産物(トマト)を選定する際に重視するのは、安全性>環境にやさしい栽培>値段の安さの順となる。安全性の中で重視するのは、農薬(残留が基準を超えないこと)>食品衛生(病原微生物に汚染されていないこと)の順となる(表3)。  
国産・外国産別、GAP認証の有無別の農産物(トマト)に対する評価は、高い順に、「国産GAPあり」>「国産GAPなし」>「韓国産GAPあり」>「韓国産GAPなし」となる。しかし、「国産GAPなし」と「韓国産GAPあり」の差は小さく、「値段の安さ」以外の評価基準(安全性、環境にやさしい栽培)で比較するとほとんど差が認められない(図1)。

[成果の活用面・留意点]

1. 行政がGAPを推進する際の参考資料として活用できる。
2. 本調査は宮城農園研登録消費者モニターへの郵送アンケート調査によるものである。調査時期は、仙台市在住モニターが平成18年11月(配布数319名、回収率68%)及び平成19年10月(配布数359名、回収率68%)、首都圏在住モニターが平成19年8月(配布数269名、回収率84%)である。GAPに取り組んでいる、あるいは認証を有することが購入時にわかる農産物は調査時点でほとんど流通していないが、そのようなものがあるという仮定の上での評価である。
3. 表1、2における評価額は、GAPに取り組んでいることで通常より多く支払っていると考えた金額である。
4. 表3、図1の分析にはAHPを用いた。評価基準として、安全性(農薬残留が基準値を超えないこと、病原微生物に汚染されていないこと)、環境にやさしい栽培、値段の安さを設定し、対比較を行った後、国産、及び海外産(韓国産)トマトにおいて、GAP認証の有無別に各評価基準ごとに5段階で評価してもらった。集計にはC.I<0.1の回答者を用いた。外国産の代表として韓国産を設定したのは、生食用トマトの輸入量(2004~2006年合計)が最も多かったことによる。
5. トマト以外のGAPに取り組み生産された農産物への消費者評価については、別途検討する必要がある。

[具体的データ]

表1 支払カード形式によるGAPの付加価値(基準:通常栽培トマト(1個100円))

モニター		付加価値を認めている回答者のみ	全体	標準偏差
仙台	評価額(円/個)	15.1	12.5	0.6116
	(人数)	(165人)	(200人)	
首都圏	評価額(円/個)	21.0	19.1	0.7113
	(人数)	(192人)	(211人)	

調査方法: 通常栽培トマト(1個100円)を基準としてGAPトマトに対する支払意思額を質問した。  
 選択肢は1個100円(通常栽培トマトと同じ)から150円まで、5円間隔で設定した。  
 調査時期: 仙台モニター平成18年11月、首都圏モニター平成19年8月

表2 選択型コンジョイント分析によるGAPの付加価値(基準:通常栽培トマト(1個100円))

モニター	仙台		首都圏	
	宮城県産 <sup>注1)</sup>	A県産 <sup>注1)</sup>	宮城県産	B県産 <sup>注2)</sup>
評価額(円/個) <sup>注1)</sup>	9.9	9.5	14.9	14.1

調査方法: 水準を産地2(宮城県産, 他県産), 栽培方法2(通常, GAP), 価格4(100円, 105円, 110円, 115円)設定し, これらの水準から構成される全16通りのトマトを提示して, 買いたいと思う程度に応じて上位3つを回答してもらった。  
 調査時期: 仙台モニター平成18年11月, 首都圏モニター平成19年8月  
 注1) A県: 調査時期(11月)の仙台市場取扱高が宮城県に次いで2位の産地(H17)  
 注2) B県: 関東地方において調査時期(8月)における東京都中央卸売市場でのトマトの取扱量が最も多い産地

表3 農産物(トマト)の選定における重要度

モニター	安全性	環境保全	値段	整合度 (C.I)	安全性における重要度	
					農薬	食品衛生
仙台	0.456	0.311	0.234	0.0015	0.527	0.473
首都圏	0.485	0.326	0.189	0.0009	0.542	0.457

C.I<0.1の回答者を集計 調査時期: 仙台モニター平成19年10月, 首都圏モニター平成19年8月

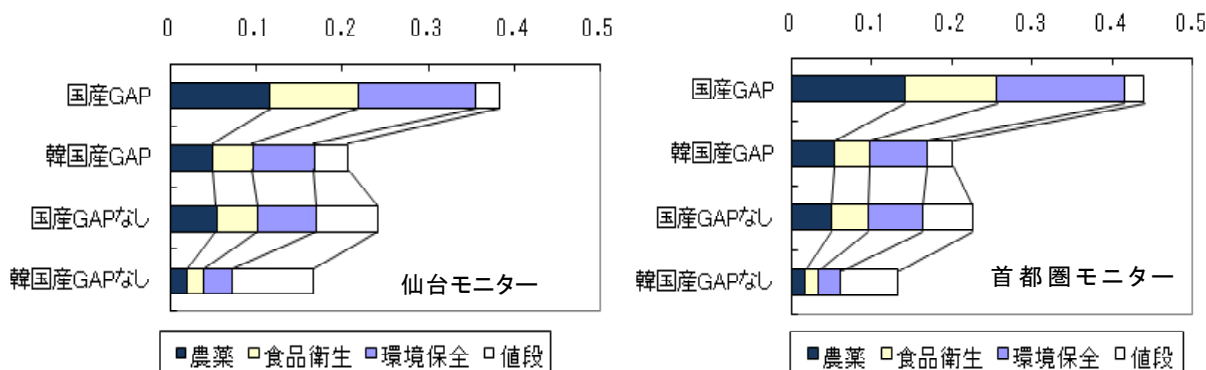


図1 国産・外国産トマトにおける総合評価値の比較  
 (調査時期: 仙台モニター平成19年10月、首都圏モニター平成19年8月)

[その他]

研究課題名: 宮城県版野菜GAPの確立

予算区分: 執行委任

研究期間: 2006 ~ 2007年度

研究担当者: 佐藤典子、高橋真紀、櫻井晃治、大森裕俊、佐藤祐子、泉澤弘子

発表論文等: 1) 佐藤(2008)2008年版農産物流通技術年報、75-80

2) Aizaki, Sato (2007) 農業情報研究、16: 150-157

3) 合崎、佐藤(2007) 農業経営通信、No.234: 30-33